

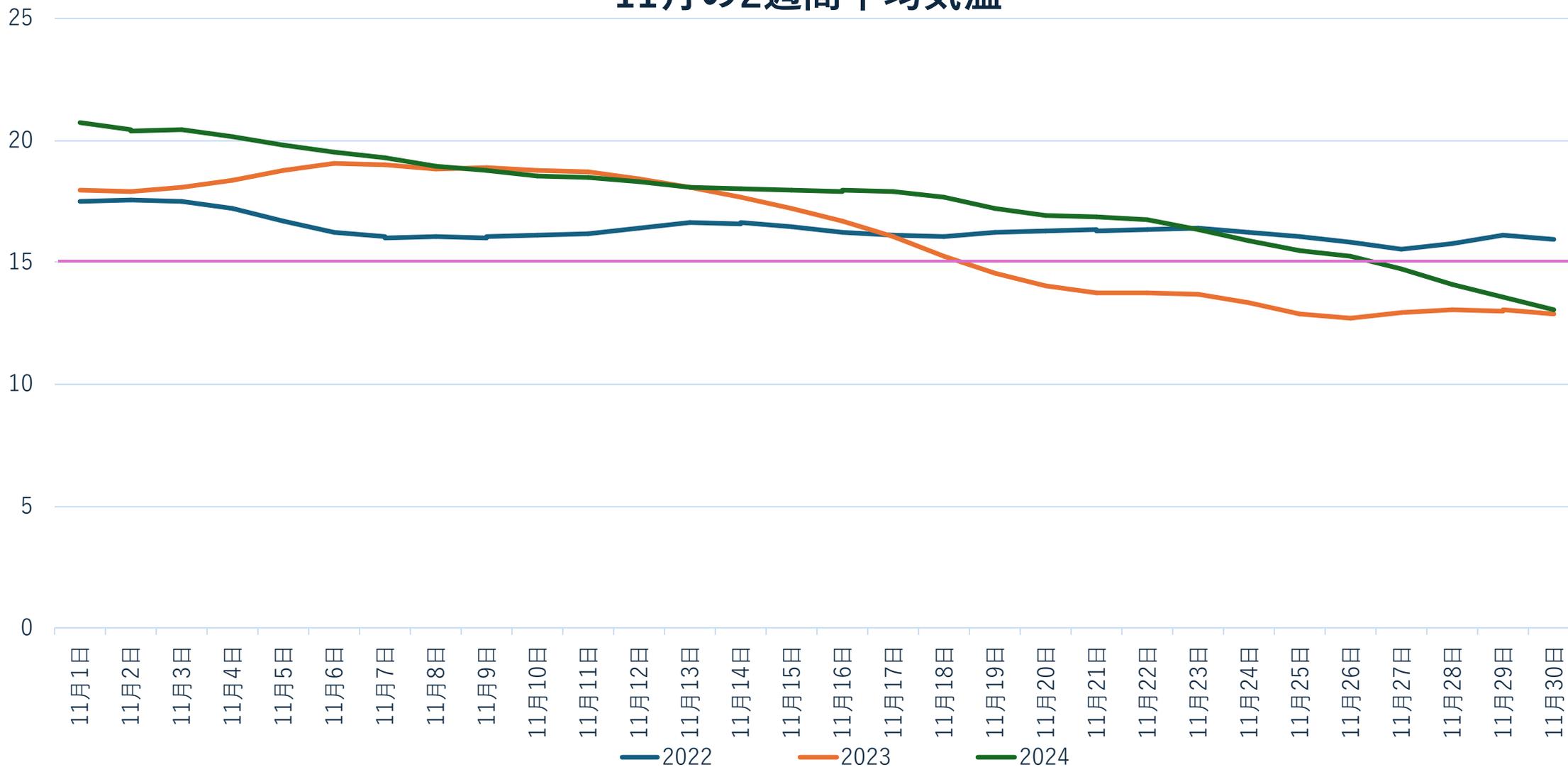
温暖化による気温上昇により蚊に刺される期間が延びています フィラリア予防期間の延長をお勧めします👉

温暖化に伴う平均気温の上昇により、近年蚊の活動期間がこれまでよりも長くなり、刺される時期も延びています。地域差はありますが、これまでは蚊の発生時期（4月～11月）に合わせて**5月～12月**の予防が推奨されていました。しかし、気温上昇の影響で**従来の予防期間では十分に対策できない可能性があります。**

15°Cを超えると蚊は活動し、2週間ほどで卵から成虫になります。
この温度下の中、フィラリア症の予防をせず、**蚊に刺されっぱなしでいる状態を3年続けると、ほぼ100%フィラリアに感染すると言われて**います。

気温

11月の2週間平均気温

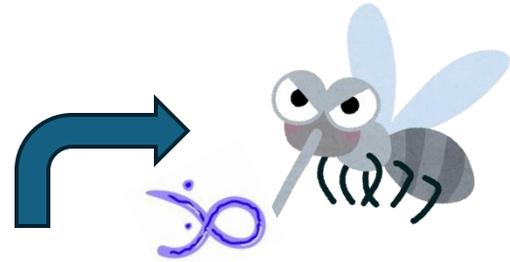


蚊は15°C以上あると活動できます。気象台による福岡の平均気温のデータから算出すると、2024年は11月26日まで15°Cを下回ることがありませんでした。2022年にいたっては11月30日を過ぎても15°C以上の気温が続いています。

フィラリア症予防薬のお薬は蚊が媒介して体内に侵入したL3幼虫(感染幼虫)がL4幼虫からL5幼虫に成長する段階で駆虫するお薬です。L3からL4幼虫へ成長するためには約1～2週間かかります。さらにL4からL5へ成長するためには約2週間ほどかかります。一般的なフィラリア症予防薬ではL3幼虫に効果が薄いとされており、そのことから考えると2022年のように11月30日まで15°C以上の気温を維持している年は特に、体内に入った感染幼虫の成長期間を考慮した上でフィラリア症予防薬を投与する必要があります。確実に予防するために1月までの投薬期間延長がおすすめです。

フィラリアに感染すると治療が困難で、重症化すると命を落とすこともあります。しかし、**定期的な予防を行えば、ほぼ100%防ぐことができる病気です。**

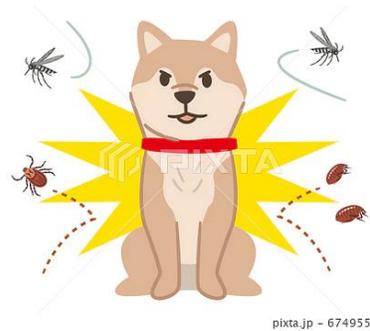
毎月のフィラリア症予防で、大切な家族を守りましょう。



フィラリアに感染している犬を吸血することで
蚊の体内にミクロフィラリアが入ります

産卵
約2週間で成虫

3ヶ月後にはミクロフィラリア
を産み出します

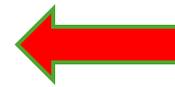


蚊が血を吸うときに
ミクロフィラリア
(L3)が犬の体内に入り込みます。

体内から3ヶ月後には心臓へ

L3~L4幼虫へ成長
L4~L5幼虫へ成長

1~2週間
1~2週間



L4~L5フィラリア薬の
効果ある期間